日本医史学雑誌　第56巻第4号（2010）　539–548

池田文書の研究（38）

勲功華族の書簡（その2）

池田文書研究会

［3］有地品之允の書簡

当家は長州藩士家.

品之允（しなのじょう）は天保14年生まれ大正8年没．海軍中将として呉鎮守府長官等を歴任．日清戦争の功により男爵となる．享年77.（1843–1919）

1　明治　年3月30日　（75）

過日来度々御来診難有御影（ママ）以テ何れも快方ニ趣キ候様ニ被存候得共，末子十五郎[1]儀ハ，先ハ同様ト申内，次第増長之様ニ被察，昨夜竹井君御来診之後モ一二時間最咳甚敷，已ニ御来診之儀可願出ト存候内から折合候ニ付，差控（カ）次第ニて何分にも掛念ニ被考候間明日にも今一応御来診之上何トカ御治療方御工風ハ有之間敷哉奉願候，尤昼中ハ咳気大キニ減少候へ共，夜ニ入候へバ大キニ増加，実ニ難堪様ニ有之候間，何卒願上御聞届奉願候，草々頓首

三月卅日　有地　拝

池田先生　閣下

（1）十五郎　有地品之允の3男．明治15年7月生まれ.

2　明治　年7月28日　（1109）

前略，老母[1]事今夕刻より腹痛ニて苦ミ候ニ付何カ食物に悪敷物ハ無之哉，又ハ下痢等之気味無之哉ト相尋候得共，右等之義無之何分にも老体之事故心細而已思ひ候由，然ルニ唯（今）ニ至リ吐之気味有之，兎角速ニ御来診相頼度候間至急御頼申上候也

七月廿八日

追て書面認候内下痢少量ニ有之候

〆

池田様　至急　木挽町　有地

〆

（1）有地於鶴　明治18年3月没.

3　明治17年2月3日　（74）

（封筒表）駿河台北甲賀町拾七番地

池田謙斉（ママ）様　親展

（二銭切手　東京・一七・二・四）

（封筒裏）二月三日　品洲筑波艦[1]有地品之允 尚

尚小原氏えも可然奉願候

拝啓，陳ハ当艦本日出帆ト相定候ニ付，其前参堂尚老母御施療之義奉願ト存候得共，何分航路ヲ被改已来，実以多用乍不本意無其儀不参候間，何卒生命ハ天ニ任セ候義ニ候へ共，先生之御治療ヲ受候上は残念無之，丸々御願仕候条可然奉願候，其内時下御尉第一ニ奉存候，余ハ帰朝之上可奉謝候，頓首

二月三日　品海　有地　拝

池田先生　閣下

（1）この筑波艦は高木兼寛が脚気病原因調査実験艦として指定したもので，艦長有地品之允海軍大佐はこの日ニュージーランドに向かって287日の航海に出発した.

4　明治　年11月28日　（73）

（封筒表）駿河台北甲賀町　池田謙斎様

（二銭切手　消印十一月・二十九日・ロ便）

（封筒裏）〆　飯田町三丁目拾四番　有地品之允

前略，末子要介[1]儀一昨来咳気増長，昨夜ハ発熱温度三十八度ニ及ヒ，今日ハ白点も少々相見候ニ付，尚変化ヲ来スルヘキヤ甚掛念ニ存候間，明

日にも御差繰之上御来診奉願候，気分ニ於てハ別段変り無之，返て加養ニ困却仕候間，御来診之節ハ篤養生上被仰聞候様奉願候，為其頓首

十一月廿八日夜　　品之允

池田先生　机下

（1）要介　有地品之允の4男．明治19年12月生まれ昭和19年没．享年59．（1886–1944）

［4］石黒忠悳の書簡

陸軍軍医総監　子爵石黒忠悳の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に46通掲載した．未掲載分を記す．

1　明治　年11月22日　　（3310）

御用談致度件有之候間，明後廿四日御差支無之候へは午前御出頭有之度候也

十一月廿二日　　石黒　拝

謙斎殿

2　明治　年2月11日　　（3312）

昨夜は御カセギ後御出無一同残念ニ奉存候，扨両生共此深雪ニ被封無拠元柳橋海老屋ニ滞在罷在候間，唯今日ハ呑気合ニテ御カセギも無之候へは直ニ御来車被下度，婦もなし，今日ハ紀元節ニテ皆ウレキリ看もなし，依て好品を御携被下度，草々以上

二月十一日　　石黒・直常

謙斎兄

3　明治41年5月1日　　（1269・再録）

拝呈，陳はコツホ博士歓迎会委員相談会来ル五月六日（水曜）午後七時ヨリ，日本橋区坂本町東京医会本部集会所ニ於テ相開候間，御来会相成度，此段得貴意候，敬具

追テ準備委員会ニ於テ立テタルコツホ博士　歓迎会按一部御手許迄差出置候

明治四十一年五月一日

コツホ博士歓迎会準備委員会　石黒忠悳

池田謙斎殿

コツホ博士歓迎会按　　（3507）

コツホ博士来朝ニ際シ医学及之ニ関係アル各学会連合発起者トナリ歓迎会ヲ開催ス，但連合各学会ハ次ノ如シ．

東京医学会・内科学会・外科学会・日本小児科学会・日本眼科学会・大日本耳鼻咽喉科学会・日本皮膚科学会・日本産婦人科学会・東京顕微鏡学会・日本衛生学会・大日本私立衛生学会・日本消化器病学会・陸軍軍医学会・海軍軍医学会・成医会・国家医学会・日本解剖学会・日本神経学会・農学会・癌研究会・東京医会・順天堂医事研究会・日本薬学会・獣医学会・東京動物学会・東京植物学会・赤十字病院研究会・伝染病研究所同窓会

一，歓迎会準備ノ為メ各学会ヨリ二名乃至五名ノ委員ヲ撰定ス，但シ従来ノ準備委員ハ引続キ委員タルモノトス．

一，委員中ヨリ委員長一名及専務委員若干名　ヲ撰ヒ次ノ事項ヲ分担ス．

式場掛・庶務掛・会計掛・宴会掛・接待掛・観劇掛．

一，各学会会員并ニ有志者ニシテ次ノ会費ヲ納ムルモノヲ会員トス．

一，会員ノ会費ハ壱名金五円トス，但シ夫人同伴者ハ金七円トス．

一，本会ノ趣旨ヲ賛成シテ金品ヲ寄附スルモノアルトキハ之ヲ受領ス．

一，本会参列者ハ「フロツクコート」若クハ羽織袴ヲ着用シ，同伴夫人ノ服装モ亦之ニ　準ス．

一，本会ハ会員章トシテ紀念ピンヲ交付ス．

一，歓迎会ハ次ノ事項ヲ行フモノトス．

第一講演会　会場上野音楽学校講堂

コツホ博士紹介辞

歓迎ノ辞

講演（通訳ヲ附ス）

謝辞

第二　宴会（立食）上野精養軒　附楽隊

第三　観劇会　歌舞伎座　時代劇及歌舞

一，コツホ博士歓迎会事務所ハ便宜ノ為メ伝染病研究所内ニ設ク．

本按ハ次ノ準備委員ニ於テ協定シタルモノナリ．

石黒忠悳・森林太郎・本多忠夫・青山胤通・飯島魁・時重初熊・岡玄卿・川上元治郎・平井政遒・北里柴三郎・木庭栄　（印刷物）

（注）上記印刷物は，石黒忠悳が池田謙斎に宛てた手紙　明治41年5月1日付第1269号（『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻72頁）に添付されたもので，手紙は参考の為再録した．

［5］伊藤博文の書簡

伊藤博文書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に4通掲載した．未掲載分を記す．

内閣総理大臣　公爵伊藤博文は天保12年生まれ明治42年没．享年69．（1841–1909）

1　明治（12）年12月24日　（154）

当夏虎列刺病流行以来内外予防之方法(1)ヲ計画シ其功労不尠ニ付別紙目録之通下賜候條御領収有之度候也

十二月廿四日　内務卿(2)伊藤博文

中央衛生会委員　池田謙斎殿

（1）明治12年6月コレラ病予防仮規則頒布．

（2）伊藤博文は明治11年5月より13年2月まで内務卿を勤める．

2　明治19年6月23日　（149）

（封筒表）侍医局長官　池田謙斎殿

（封筒裏）緘　宮内大臣伯爵　伊藤博文

婦人服制之儀先般及内達置候処，自今皇后宮ニ於テモ場合ニヨリ西洋服装御用ゐ可相成ニ付，皇族大臣以下各夫人朝儀ヲ始メ礼式相当之西洋服装随意可相用事

明治十九年六月廿三日

宮内大臣伯爵　伊藤博文

3　明治20年4月29日　（148）

（封筒表）侍医局長官　池田謙斎殿

（封筒裏）緘　宮内大臣伯爵　伊藤博文

喪中(1)御尋トシテ御菓子壱折下賜候間此段申入候也

明治二十年四月二十九日

宮内大臣伯爵　伊藤博文

侍医局長官　池田謙斎殿

（1）池田謙斎妻いく（幾）明治20年4月28没．享年29．

［6］井上馨・勝之助・執事・松岡勇記の書簡

当家は山口萩藩士家．

井上馨（かおる）の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に10通掲載した．未掲載分を記す．

侯爵井上馨は明治期主要各大臣歴任．天保6年生まれ大正4年没．享年81．（1835–1915）

井上勝之助は井上馨の兄光遠の次男として生れ馨の嗣養子となる．文久元年生まれ昭和4年没．明治期の外交官として各国大使・式部長官歴任．侯爵．享年69．（1861–1929）

松岡勇記は井上家出入の医師．

1　明治　年5月18日　（242）

拝読如兪明日午後四時何も差支り無御座候，御待可申上候，匆々拝復

五月十八日　馨

謙斎先生

2　明治　年6月26日　（261）

（封筒表）池田謙斎殿　親展急き

（封筒裏）〆　井上勝之助

拝啓，尓来御病気は如何ニ御坐候哉，近々御快方ニ被為御渡候事と伝承仕候得共，近頃は御見舞も不申上，恐縮千万之至御許容奉願候，陳は荊妻(1)義も以御蔭昨日馬車ニて鳥居坂へ移転為致，松岡君も同伴途上幸無別條到着，移転方も先々無滞相済誠ニ仕合之至り奉存候，前陳申上方御伺迄如此ニ御坐候，早々敬具

六月廿六日　勝之助　拝

池田謙斎様　侍史

（1）井上勝之助夫人末子　小沢正路三女．元治1年生まれ昭和9年没．享年71．（1864–1934）

3　明治　年1月5日　（263）
（封筒表）東京駿河台甲賀町
池田謙斎殿　親展
（封筒裏）封　従　愛媛県伊豫道後　井上勝之助
（消印　松山・□□・一・七・は）
改暦之吉慶万里同風愛て度申納候，先以高堂御技益御清福被為渡御重歳珍重之御儀奉祝賀候，二ニ当方ニ於ても両親始其他一同無恙越年仕候間，乍憚御配慮可御降候，陳は旧来ハ百事御蔭ヲ蒙リ御厚情之段，鳴謝之至リニ不堪奉存候，猶当年も不相換御愛顧之程奉希望候，先ハ此段歳甫之御祝詞申述旁寸楮拝呈仕度，書余は永日之時ヲ期シ万縷可申上候，拝具
正月五日　井上勝之助
池田謙斎様　侍史

4　明治　年3月1日　（264）
追て今朝便ヲ差出候ハ本文之次第ニ御座候也
拝啓，昨日ハ失敬候段奉万謝候，陳ハ荊妻義今朝五時頃より俄ニ下腹之痛み甚き相成候処，血ガ多分ニ流出，逐つて子供之形ヲ有スル者落ち，夫れカ為メ一時ハ随分苦み候へ共，其後一服之容体トなリ，平生とハ相換リ候事無之気分抔ハ至て宜敷方ニて唯時々下腹之痛みハ覚ユルノミ，右ハ固より流産ニハ相違無之ト存候，付てハ向後之用意等篤と相承リ度候間，可成御都合次第ニ御来診被下度奉懇願候，早々拝具
三月一日午前九時　勝之助
池田先生

5　明治　年11月11日　（265）
拝啓，益御清栄奉恭賀候，陳ハ荊妻義両三日来引続下痢之気味ニて，今朝宛リハ何分甚敷，為メニ身体衰弱致候ニ付，既ニ中井[1]氏えも診察相頼み候へ共，今以テ快癒之模様無之，加ルニ胃部之辺ニ病所有之候由ニて進退自由ナラス，付てハ乍御足労御都合次第一応御来診相成リ候様相願度，此如御依頼まて，書余ハ拝鳳ニ相譲リ，早々拝具
十一月十一日　勝之助
池田先生　侍史
（1）中井常次郎　華族・政府高官家出入の医師.

6　明治31年2月13日　（262）
（封筒表）神田区駿河台北甲賀町九番地
池田謙斎殿　親展
（封筒裏）封　麻布宮村町　井上勝之助
御懇書拝読仕候，其後益御清栄被為渉候段奉賀候，陳ハ小生義今般独乙駐在公使拝命ニ付テハ御懇切ナル御祝詞ヲ蒙リ，且御贈品ヲ辱シ御厚情之段深謝之至リニ不堪奉存候，何れ其内昇堂御礼可申上候へ共，不取敢此段拝答迄，早々拝具
二月十三日　井上勝之助
池田謙斎殿　侍史

7　明治　年4月5日　（233）
拝啓，陳は来ル七日是非御枉車被成度様御奥方より下命ニ付，即托寸楮申進候間，何卒来（欠）七日是非御来駕相成度此段申入候也
四月五日　井上執事
池田殿

8　明治　年3月9日　（1253）
辱芳墨忝奉万謝候，陳ハ奥方風邪ハ漸々宜敷候へとも，又々少々胸痛致し候由ニて臥床被為在候，此段申上候，扨御聞ノ歯医者渡辺氏へ御示指之時刻御来莅相成候様願上候，猶又杉田行ハ十日之処十一日ニ延引致候へとも，病恙未タ全快不相成候間被為見合候，右貴酬申上度如此御坐候，匆々頓首
三月九日　井上執事
池田様
侍曹御中

9　明治　年6月4日　（2719）
謹て奉呈寸楮候，時下清明之候ニ相成候処，殿下愈々御清寧奉拝賀候，陳本日は霊南坂へ御賁臨被下候由，更らに存し不申甚失敬仕候，病状如何ニ御座候哉，勇記儀ハ頃日兎角行違ヒ拙診も不仕候，随て先般御処方相成候臭剥剤[1]沃剥[2]も既ニ二十只ニ至り四五日持長仕候処，今後も尚持長可仕哉，卿殿にも余程御多忙之由にて，例之打膿

も于今それなりに打過キ候，且定し御聞及ヒにも相成候通り八日比にハ愈々発途之様子，夫迄之処置将来之方法等旁々御内慮伺置度，一両日内に是非伺候積りニ御座候，甚申上兼候得共，御留守標にても相分り候様奉願上候，御郵書戴候ハヽ殊に難有奉存候，右不省失敬寸楮奉伺候，何分宜布奉頼上候，書外ハ拝眉之上可申上，匆々頓首

六月四日夜　勇記

池田先生

御執事下

（1）臭剥剤（しゅうはく）　臭素カリ剤．癲癇・神経痛に功あり．

（2）沃剥（ようはく）　沃素カリ．殺菌剤．

10　明治　年　月13日　（2720）

（封筒表）池田先生　松岡勇記

（封筒裏）謹緘　井上 内より

拝啓，鬱陶敷天気何卒快晴奉祷候，陳勝之助殿一昨日より歯痛兼半面痛，尤も昨日は御来診も有之候よしニ候得共，其際ハ生憎不在にて御高診をも不受候よし，昨夕方より疼痛腫脹益々甚敷昨夜歯齦乱刺放血之事申候得共，肯スルナリ，本日ニ至リテハ半面甚敷腫脹疼痛難堪困難之体に有之候，就てハ甚申上（兼）候得共至急御来診被下候様勇記より荒増容体申上，御願申上呉候様との御事ニ御座候間，不取敢如此乱揮御願申上候，兼て之性質困り申候，余ハ拝鳳万々可申上候，為其草々頓首敬白

十三日　松岡勇記

池田大先生

御執事下

11　明治　年4月1日　（2721）

好天気ニ相成一段之御事ニ御座候，過日は難有奉拝謝候，尓後井上患者先同様と申内，昨日ベルツ先生廻診後頻りに笑を催し，后其少しく痙攣（欠）し直チに鎮静，昨夜ハ九時頃より安眠本日六時まても醒ス罷在，至極平穏ナル症状ナリト悦居候処，同時より直に大痙攣を起し一時間余も鎮静不致コロラールヒタラート[1]十瓜頓服セシメシモ，睡眠ハ催スモ？掣ハ鎮り不申，昨朝は硫苦土頓服後多量之宿便快通，昨日来子宮ニ触レ（欠）少々疼痛ヲ覚ヘ本日□にハ薦骨部等鈍痛ヲ覚ヘ候よし，旁々患部之炎症未タ全ク消散セサルモノナラン，挙家頻りに心配罷在候，就てハ予て御談有之候通リ今一応放血か，又ハ何か他に御方法も（欠）ベルツ先生御相談之上何分宜布御願申上呉候様相談有之候ニ付不省失敬勇記より此段不取敢得貴意候，余ハ拝鳳万々可申上候，匆々謹言

追て御都合次第ベルツ氏えハ時限万端先生より午御手数御相談被成下候様奉懇願候

四月一日　勇記

謙斎池田大先生

御執事下

（1）コロラールヒタラート抱水クロラール．催眠・鎮痛剤．

[7] 岩佐純の書簡

男爵岩佐純（侍医局長代理）の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に12通掲載に付き省略．

[8] 岩崎弥之助の書簡

当家は代々高知藩の郷士家．

男爵岩崎弥之助は兄弥太郎と共に三菱会社の経営に当たり海運業拡張に功績あり．嘉永4年生まれ明治41年没．享年58．（1851–1908）

1　明治　年1月8日　（579）

拝啓，昨日御相談申上候高木先生今日正午十二時半池ノ端へ参りくれられ筈ニ御坐候間，此之大雪中甚恐縮ノ至ニ奉存上候得ども，右時刻先生何卒御枉駕被成下候様奉願上候，右御願上迄，匆々謹言

一月八日　弥之助

池田様　研北

[9] 榎本武揚の書簡

子爵榎本武揚の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に5通掲載に付き省略．

［10］大木喬任の書簡

伯爵大木喬任の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に5通掲載に付き省略.

［11］大久保利和執事の書簡

当家は鹿児島藩士家.

大久保利和（としなか）は利通（としみち）の嗣子で，利通の勲功により侯爵を授けられる．安政6年生まれ昭和20年没. 享年87.（1859–1945）

1　明治　年　月10日　（755）

御条文之趣奉謹承候也

□月十日　大久保利和　執事

池田謙斎殿

［12］大隈重信・執事の書簡

当家は佐賀藩士家.

大隈重信の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に1通掲載．未掲載分を記す.

内閣総理大臣　侯爵大隈重信は天保9年生まれ大正11年没．享年85.（1838–1922）

1　明治22年12月17日　（691）

（封筒表）池田謙斎殿

（封筒裏）〆　明治廿二年　大隈重信

拝啓仕候，陳ハ小生今回不慮之傷を蒙り候ニ付てハ不一方御煩慮，全ク尊台之御施術宜きを得候為，今日之如快癒仕候次第感謝ニ不堪候，付てハ別紙目録之通聊謝意を表度勧進呈仕候間，御領収被成下候ハヽ本懐之至ニ奉存候，何れ遅日参上御礼可申上存候得とも，不取敢以寸楮如此御坐候，草々頓首

十二月十七日　大隈重信

池田謙斎殿

目録

一，金五百円

一，肥前やき丼鉢

一，紅白餅　一重

右進呈仕候也

十二月十七日

2　明治　年11月25日　（570）

御書意敬承仕奉□□□，就沢参り居候ニ付，御垂示之通今夜御宿直相頼可申候，先は拝後而已，草々頓首

十一月廿五日　大隈執事

池田様　侍史御中

3　明治　年4月5日　（3105）

拝啓仕候，陳は一両日前より不快ニ（欠）籠候儀ニ御座候間，本日ハ是非とも御差繰御来診被下候様奉願上候，匆々頓首

四月五日　大隈執事

池田様　侍史御中

4　明治　年1月29日　（3107）

拝啓仕候，陳ハ主人兼て感冒之末面部稍相膨れ居候様存候間，明日ハ御繰合せ是非とも御来診被下度奉願上候，此段各位まて奉得芳意居候間，可然御取次奉願上候，草々頓首

一月廿九日　大隈執事

池田謙斎殿　侍史御中

尚々明日ハ官邸ニ相居可申候

［13］大倉喜八郎の書簡

大倉喜八郎の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に6通掲載．未掲載分を記す.

男爵大倉喜八郎は越後新発田の商家出身．海外貿易・各種公共事業に貢献する．天保8年生まれ昭和3年没．享年92.（1837–1928）

1　明治　年9月3日　（735）

尚々成丈ヶ御繰合相願度奉懇願候

寸楮拝呈仕候，然ハ愚生小児義，昨日より不快ニ御坐候処，本日ニ至リ甚タ容躰あしく相成困却罷在候ニ付，御繁忙中奉恐入候得共，何卒茅屋之御枉車，御診察被成下度奉希候，此段願上度以寸毫如此御坐候，恐々拝具

九月三日　大倉喜八郎

池田先生　閣下

2　明治　年 11 月 8 日　（736）
（封筒表）池田謙斎様　侍史
（封筒裏）封　大倉喜八郎
　　口上
昨日は難有奉存候，陳は小児義気分あしく，困却罷在候間，御一覧被成下度奉祈候，小生義同様ニ御坐候間，御薬頂戴仕度候，右願用迄，恐々頓首
　十一月八日　大倉喜八郎
　池田老台　侍史

3　明治 15 年 4 月 4 日　（738）
（封筒表）駿河台北甲賀町九番地
　　池田謙斎様　　大倉喜八郎
　　（消印　東京一五・四・四）
拝啓，温和之候益御清頂暢奉敬賀候，陳は頃日ハ墨堤十里桜甚爛漫之佳境ニ至リ，一段之春光ヲ弥成候ニ付，風雨狂驟無之中，花下ニ於テ野醸拝供仕度，来八日午後一時ヨリ同所草庵へ御曳杖被成下度奉希候，右花信御報道旁如此御座候，草々頓首
　四月四日　大倉喜八郎
　池田謙斎様　侍史

4　明治　年 3 月 29 日　（742）
拝呈，咽喉も大ニ宜敷相成申候，兎角大便不通ニ御坐候間，内用水薬御加減被下度奉願候，右願用迄，早々頓首
　三月廿九日　大倉喜八郎
　大原（小）様　侍史

［14］大鳥圭介の書簡

男爵大鳥圭介の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に 6 通掲載に付き省略.

［15］大森鍾一の書簡

当家は代々駿府にあって幕府に仕えた.

男爵大森鍾一（しょういち）は新政府に出仕し内務省・長崎・兵庫・京都府知事・皇后宮大夫等歴任．大正 4 年勲功により男爵を授けられる．安政 3 年生まれ昭和 2 年没．享年 73.（1855–1927）

1　明治　年 4 月 13 日　（3219）
拝啓，益御清適奉敬賀候，過日ハ御繁務中御診断奉願恐入候，以御庇次第ニ快方此両三日来ハ七八分通音声も回復仕候，其他一体ニ平常ニ復候様ニ被存候，只発声ノ所猶少々枯レ居候事ニ御座候，ヤハリ兼て御指示之通薬用致居候，右ハ御礼旁病状申上置度，何レ拝趨万奉伺度候得共，不取敢書上如此御座候，猶手当ノ方も候ハヽ御差図奉願候，匆々頓首
　四月十三日　鍾一
　池田先生　侍史

2　明治　年 10 月 30 日　（3122）
拝啓仕候，二男辰二儀永々御厄介相成居候処，保養不相叶終ニ昨二十九日午後一時四十分死去仕候，更て御礼可申上候得共，不取敢拝謝兼此段御報知申上候，恐々頓首
　十月三十日　大森鍾一
　池田謙斎殿
　　執事御中

［16］大山巌の書簡

公爵大山巌（いわお）の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に 3 通掲載に付き省略.

［17］岡玄卿の書簡

岡玄卿（げんけい）の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に 4 通掲載．未掲載分を記す.

当家は美作津山藩士家.

男爵岡玄卿は医学者とし活躍．池田謙斎辞任後の侍医局長を勤める．嘉永 5 年生まれ大正 14 年没．享年 74.（1852–1925）

1　明治　年 12 月 2 日　（3314）
謹啓，陳は二位局[1] 殿一昨夜来引籠ニ相成今朝一診仕候処，過日来之胃痛一層御強ク加フルニ昨日来二回斗喀痰之中ニ血液ヲ混和セルモノヲ御喀出之模様ニ承り候，且又一昨夜来之御水薬御用之後は一層胃痛増加之御由ニ付，御診察迄御後服ヲ御見合セ被成候様申上置候，就ては御多用中恐縮ニ奉存候得共，本日中ニ御繰合セ御廻診被成下候

様奉願候，先は右願用迄如此ニ候，恐々頓首

十二月二日　　玄卿　拝

池田先生　閣下

尚々本日之処ハ兼用御散薬ノミ御用相成候　様申上置候

（1）柳原愛子（なるこ）　大正天皇の生母.

2　明治　年6月24日　　（3114）

（封筒表）池田先生　侍史　　岡玄卿

（封筒裏）〆　第六月廿四日

日本橋区本町一丁目八番地

謹啓，薄暑之候益御忻愫奉拝賀候，陳ハ拙家隍堵漸竣功ニ付，右些標迄ニ明廿五日麁酒擎呈仕度微意ニ候間，御繁務中甚畏入候得共，午後四時より御賁臨被下度偏奉待上候，右御案内迄申上度，匆々頓首

六月廿四日　　岡玄卿　拝

池田先生　玉机下

［18］沖守固・貞男・貞次の書簡

当家は鳥取藩士家.

沖守固（もりかた）は長崎・滋賀・大阪の各府県知事を勤めその勲功により男爵を授けられた．天保12年生まれ大正1年没．享年72.（1841–1912）

守固の長女房子は池田謙斎の長男秀男の妻.

貞男は守固の嗣子．明治21年生まれ昭和25年没．享年63.（1888–1950）

貞次は守固の次男．明治22年生まれ昭和16年没．享年53.（1889–1941）

1　明治　年5月9日　　（701）

（封筒表）池田謙斎様　親展　　沖守固

（封筒裏）　　托　三摺□信方氏

拝呈仕候，愈御清康奉賀候，三浦郡長小川茂□忰銭之助と申仁，多年胃病ニて難義候，是非今般御診察奉願度御多用中恐悚之至ニ候へ共，御繰合御診察被下候ハヽ難有奉存候，右願用耳，草々頓首

五月九日　　守固

池田先生　侍史

2　昭和　年2月4日　　（708）

（封筒表）杉並区西田町一丁目

男爵　池田真次郎殿

（封筒裏）〆　世田谷□上湯町一ノ□□七

沖貞男　　（華族会館来客用）

謹啓，土地の件につき種々御手配御多用中御推察申上候，時に先方へハ千坪として坪三十円手取三万と大体の話をつけ置き候処，本日聞及へば実測坪数千〇（ママ）一坪よりなく，是に百坪の減となり坪数にしてハ僅か百坪なるも金額としてハ三千円也，是に於テハ問題は二ツと相成り申候

一，前の主張通り三万円説を主張するか，かくすれハ坪三十五円見当となり，即ち九百坪にて三万一千五百円也となり

一，九百坪を三十円として二万七千円手取にて買（ママ）却するか

一，止む得さる時ハ中間説を取り二万九千円位にて落ち付けるか

右を御熟考の上至急御通知被下度，誰も高く売り度きハ当然にて当方としてそれへ十分主張ハ致す可きも一応貴君の真意を伺ひ度く右得貴意候也

二月四日

池田真次郎[1]様　侍史

（1）池田真次郎　池田謙斎の孫．明治43年生まれ，昭和5年男爵家を継ぐ．昭和56年没．享年72.（1910–1981）

3　昭和　年5月23日　　（702）

（封筒表）杉並区西荻窪一ノ一六四

池田真次郎様

（封筒裏）〆　五月廿三日

藤村商店

東京市四谷区左門町十四　沖貞次

先般は参上致しましてその節は失礼致しました，色々御話を伺ひ藤村君も大変ニ参考になったと喜んで居ります，方針の基礎も出来ましたから出来る限り活動致し見るつもりです，此の上とも御尽力を御願ひ致します，ホーレン草の粉と藤村氏に特許出願の粉は工場の方等完備致さば御役所の方は大方成功なのでせうか，若し不備な点かあるな

らば折り返し御注(ママ)告相願度御待ち申して居ります，完全ならば差出す考へです，それに一度御試験并に分析を願つて大方の処御手数乍ら無事通過願へる様に御骨折り願ひます，尤も当方にても分析の方は最近出来上ってくるので一切はわかる事になって居ります，工場の方の工作は急いて居りますから準備も最近付くでせう，一品でも陸軍の方へ入れなければ駄目ですから心配に心配をして居ります，勝手ですが出来範囲に御尽力の程幾重にも御願ひ申し上けます，御手紙は店の方でも自宅の方へでもよろしき方へ御願致します

沖貞次

池田真次郎様

[19] 香川敬三の書簡

香川敬三の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に21通掲載．未掲載分を記す．

当家は常陸国伊勢畠村に住す．

伯爵香川敬三は幕末岩倉具視の信任を得功績あり．皇后宮大夫・皇太后宮大夫等を歴任．天保12年生まれ大正4年没．享年75．（1841–1915）

1　明治19年12月10日　（1306）

一，白縮緬　壱匹

右者久宮[1]御方ヨリ被下候間及御廻候，御拝受相成度候也

十二月十日　　久宮御養育主任　香川敬三

池田侍医局長官殿

（1）久宮　第五皇女　静子内親王．明治19年2月10日ご誕生．翌年4月4日薨去．

2　明治　年4月1日　（1311）

（封筒表）池田侍医局長殿　親展

（封筒裏）〆　香川敬三

拝啓，夕之御拝診，御体温丈ニて宜敷，一寸御申聞奉願候，將又橋本氏拝診御奏請之件は御許可相成候哉，心配致居候間奉伺候，敬具

四月一日　　敬三

池田様

3　明治27年6月15日　（1342）

（封筒表）池田侍医局長殿

（封筒裏）（印）緘　香川皇后宮大夫

貴官所労御尋トシテ皇后陛(平出)下ヨリアイスクリーム賜リ候間，御拝受被成度此段申入候也

廿七年六月十五日　皇后宮大夫　香川敬三

池田侍医局長殿

[20] 桂太郎の書簡

公爵桂太郎の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に7通掲載に付き省略．

[21] 加藤弘之・照麿の書簡

加藤弘之(ひろゆき)の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に63通掲載．未掲載分を記す．

弘之の嗣子照麿の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に3通掲載に付き省略．

当家は代々但馬出石藩士家．

男爵加藤弘之は東大綜理・帝国大学総長等を歴任．天保7年生まれ大正5年没．享年81．（1836–1916）

1　明治　年1月24日　（3509）

昨日は態々御報被下難有仕合，学位証書一件委曲拝承仕候，尤先ツ昨日文部省へ持参委曲申立候，若し明廿五日学校へ御立寄被下候ハ、御面談候て委敷可申上候，御都合次第小生より罷出候間，可被仰下候也，ベールツ之儀ニ付難有，昨夕右え罷渉相頼候処，今午後三時比ニ参呉候様申聞候，付てハ竹内君へ別事相頼置事ニ御坐候，此段も一寸申上置候也

一月廿四日

2　明治　年　月29日　（3587）

法学部の事ニて両三日少々多事有之候，今日も不勤仕候，月曜日ニ出勤之心得御坐候，此段池田三宅両氏出勤有之候ハ、御伝え被下度候也

廿九日

3　明治　年3月6日　（3601）

先日願上置候木村正辞[1]罷出候間よろしく御願

申上候也

三月六日

（1）木村正辞（まさこと）　下総成田生．維新後文部省出仕，帝国大学文科大学教授．国学者から国文学者へと学問の近代化・精緻化に成功した碩学．享年87．（1827–1913）「東大医学部初代綜理池田謙斎」上巻129頁に加藤弘之書簡（1405）に関連文言あり．

（注）上記3通の手紙に署名はないが，文面・筆跡により加藤弘之の手紙とした．

［22］樺山資紀の書簡

当家は鹿児島藩士家．

樺山資紀（すけのり）は陸軍より海軍に転じ日清戦争に功あり伯爵に陞爵した．天保8年生まれ大正11年没．享年86．（1837–1922）

1　明治15年8月25日　（3101）

（封筒表）池田謙斎様

（封筒裏）封　樺山資紀・野津道貫

拝啓，大山氏妻[1]病気ニ付，過日来不容易御配心ヲ蒙り候処，遂ニ養生不相叶昨夜九時頃致死去候，是迄種々之御尽力御礼申様も無之，不取敢御報知仕候，且明廿六日午後一時出棺青山墓地へ埋葬候間併て申上置候也，敬白

八月廿五日　　樺山資紀・野津道貫

池田謙斎様

（1）大山沢子　伯爵吉井友実の長女．明治15年8月没．享年23．（1860–1882）

［23］川上操六の書簡

当家は鹿児島藩士家．

陸軍大将・参謀総長．日清戦争に功あり子爵を授かる．弘化4年生まれ明治32年5月没．享年53．（1847–1899）

1　明治　年8月22日　（1329）

（封筒表）池田謙斎殿　親展

（封筒裏）緘　　川上操六

拝呈，益御壮栄之筈奉恭賀候，然ハ過般故西郷隆盛君記念銅像建設之儀御賛成被成下度旨御依頼申上候儀モ有之候処，今回帳簿え寄附金記載相願候事ニ致候ニ付，該帳簿差出申候間，御賛成ニ於テハ多少ニ拘ラズ寄附金額御記載被成下度，此段奉希望候，敬具

八月廿二日　樺山建像委員長代　川上操六

池田謙斎殿　貴台下

追テ御賛成御即納被成下候トモ金員ハ後日事務所より領収証為持請取ニ差出可申候也

（主要参考文献は次号に記す）